

## 未来へつなげよう 杉の子隊活動

秋田県湯沢市立秋ノ宮小学校 6年

猪俣 光里 佐藤 昂平 佐藤はるな 菅 美咲  
菅 めぐみ 菅 結佳 高橋 紗妃 樋口 彩貴

### 1 はじめに

一昨年、秋の森林教室で訪れた湯ノ又林道には、杉の間伐材を利用した「カンキョウ橋」がありました。わたしたちがここを訪れたとき、木が風にゆれ、きれいな音が聞こえました。そこで、わたしたちは「そよ風橋」と命名しました。

わたしたちが住んでいる秋ノ宮は、緑、水、風、すべてが、わたしたちにやさしく語りかけてくれるような所です。わたしたち秋小杉の子隊（緑の少年団）は、このような豊かな自然の中で、さまざまな森林活動を行っています。また、これらの活動から疑問に思ったことについて、総合的な学習の時間に調べて発信してきました。これから、わたしたちの活動を紹介します。



### 2 活動内容

#### (1) 秋の自然教室

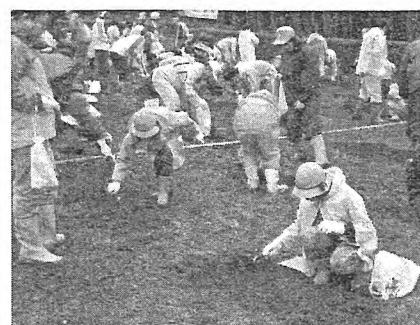
昨年10月に、学校から3kmほど離れた学校林「喜びの山」に登りました。森の案内人さんから、さまざまな植物について説明していただきました。そして、アオダモやトチノキなどの広葉樹の苗を植えました。いつまでも、大空高く伸びてほしいと思います。



#### (2) 植樹祭、植樹活動への参加

昨年9月には、漁業協同組合によるブナの植樹も体験しました。大きな石が多く、土を掘り起こすのが大変でした。そして、豊かな森が魚の住めるきれいな川をつくっていることを学びました。

昨年5月、仙北市田沢湖で行われた秋田県植樹祭に、6年生が親子で参加してきました。式典では、秋田県学校関係緑化コンクールで県知事賞をいただきました。また、昨年6月には、北海道苫小牧市で行われた全国植樹祭にも参加し、



全日本学校関係緑化コンクールで準特選をいただけてきました。

このような活動に参加し、森が果たす大きな役割を学ぶことができました。これからも、この豊かな自然を大切にしていきたいと思えます。

### (3) 親子森林教室

昨年6月に、親子森林教室が行われました。わたしたちは、毎年、親子で学校林「喜びの山」に登っています。森林教室では、1年生はおうちの人と一緒に、杉苗の植樹をしています。今年は6人の1年生が「丈夫に大きくなってね。」と心をこめて植樹していました。2年生以上は、下刈りや雪起こしをします。鎌を使って、杉の木が大きく育つように、まわりの草を刈っていきます。また、雪によって倒れかけた杉も起こします。先輩たちの杉も、みんなで世話をしました。

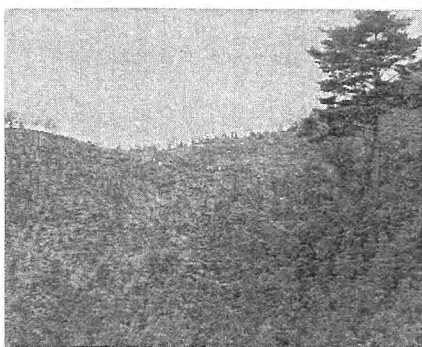
すべての作業が終わり、森林組合の方といっしょに枝打ち体験や杉の木の成長を調べる活動をしました。枝打ちには、1年生ものこぎりを使って挑戦しました。幹の太さも測りました。わたしたちが測った幹の直径は41cm。ちょうど幹に手を回したぐらいの太さでした。そして、年輪も数えました。ゆっくり数えると46。つまり、46年かかって、ここまで育ったことになります。

### (4) 学校林を支える地域の方々の思い

親子森林教室で、46才の杉の木を見て、46年前の学校林はどんな様子だったのだろう、当時の人たちはどんな気持ちで植樹していたのだろうと疑問に思いました。そこで、当時秋ノ宮小学校に在籍していた方やおうちの人に話を聞いたり、資料を調べたりしました。

秋ノ宮小学校で計画的に植林が始まったのは、昭和33年頃だそうです。お父さんお母さんたちが子どものころは、学校から学校林まで歩き、人が一人やっと通れるような山道を、杉苗をかついで登ったそうです。山には木が少なく、山からの眺めよかったといひます。今はたくさんの杉の木が育っている学校林。緑いっぱいの学校林になったのは、たくさんの先輩方や地域の方々が、苗を植え、一生懸命世話をしてくれたおかげだと思ひます。

わたしたちは、学校林のことに詳しい方にお話を聞き、大正12年に学校が全焼したということを知りました。当時は木材が大変貴重で、学校を建て直すために多額の費用がかかったそうです。そこで、今後このような災害や建て直しの時に、少しでも役に立





ってほしいという地域の方々の願いから、植林が始まったということでした。自分が生まれ育った秋ノ宮から、自分が教えを受けた学校だから、子どもたちの役に立ちたい、という地域の方々の熱い思いがあったのだと思います。

小学校を卒業すると、学校林に登ることはなかったといえます。大人になってから、再び学校林に登ると、子どもが小学校に入っていない地域の方々も、みんな

で下刈りをしていたそうです。現在、学校林にある山道も、地域の方々が協力して作ったのだと話していました。

学校のために役に立ちたい、秋ノ宮を緑豊かにしたい、先輩たちが育ててきた森を守りたいという思いが、今の「喜びの山」をつくっているのだと思います。そして、「学校林を子どもたちにも受け継いでほしい」という強い願いも込められているのではないかと思います。わたしたち秋ノ宮小学校の歴史は、地域の方々の協力によって支えられてきたといえるのではないのでしょうか。



#### (5) 6年間の学校林活動

1年生のとき初めて登った「喜びの山」。山道がとても長く感じました。そして、おうちの人といっしょに植樹しました。「早く大きくなって。」と植えました。

2年生になると初めて鎌で下刈りをしました。でも、ほとんどおうちの人に手伝ってもらいました。わたしたちの杉は、まだまだ小さかったです。

3年生、下刈りも自分でできるようになりました。4年生になり、森の案内人さんからいろいろなお話を聞きました。「喜びの山」の豊かな自然を、目、耳、肌で感じました。

5年生、雨の中での下刈りとなりました。雨の中でも、一生懸命下刈りをしました。そして、育った杉がどのようになるのか調べるため、製材所を訪れました。わたしたちが住んでいる秋ノ宮の杉が、日本だけでなく外国まで届いていると聞いて驚きました。

そして、今年。最後の「喜びの山」。自分の杉の木に会えるのをずっと楽しみにしていました。6年間、わたしたちとともに大きく育った杉の木。「風や雪に負けるなよ、わたしもどんなことがあっても負けない。」と、自分の杉の木と約束しました。



### 3 おわりに

この「喜びの山」をずっと大切にしてほしい、地域の方の思いをみんなに伝えたいという願いから、紙芝居を作って全校のみんなに紹介しました。また、自分たちの思いをいろいろな方に知ってもらおうと、昨年夏に、八峰町で行われた秋田県緑の少年団交流集会や、東京都八王子市で行われた「学校林・遊々の森」全国子どもサミットに参加し、活動の様子を紹介してきました。また、静岡県で行われた緑の少年団全国大会にも参加してきました。

杉の木は、青空高く伸びています。学校林には、わたしたちに杉の木のようにすくすく育ってほしいというみんなの願いも込められているのではないかと感じました。わたしたちも、杉の木と同じでいろいろな方々に支えられています。感謝の心を忘れず、杉の木のように、まっすぐ夢に向かって歩いていきたいと思います。そして、わたしたちが受け継いだ先輩方の思いを、今度は未来に伝えていきたいと思います。

